

ドキュメント

大雪被害対策の10日間



2月18日深谷市視察
手前が村岡県議

記録に残る大雪被害に、党県議団は地元市町議員団と密接に連携し、迅速に県と国に働きかけました。

その結果「一時は別の仕事をやることも考えたが、父から継いだイチゴ農園の再建に向けて残ったハウスで営業を再開した」（秩父で会ったイチゴ農家）このような営農意欲をささえる、素早い再建支援制度の実現につながりました。

2/14 記録的積雪始まる。

2/15 各県議地元で除雪に奮闘

2/16 秩父市議団から雪で孤立した人たちの救援要請の電話が村岡県議に。県危機管理防災部に救援依頼。秩父市自衛隊派遣要請を県が拒否していた問題で、繰り返し、地元の意向を尊重するよう要請

2/17 人命優先で除雪を進めることや、倒壊ビニールハウスの撤去や再建支援自衛隊派遣について地元の意向を尊重するなど県に申し入れ

2/18 深谷市の農業被害を視察

2/23 秩父市の大雪被害視察

2/25 県農民連と紙智子参議院議員、党県議団が、副知事に農業支援で申し入れ（写真右）

3/6 農水省などに申し入れ



雪害対策迫る！

奥田県議初めての委員会質問(写真下)



3月2日補欠選挙で当選した奥田智子県議は9日に豪雪被害の深谷市を視察し、11日の環境農林委員会で農業再建支援を強く求めました。

奥田県議は専門業者に限られることから、倒壊ビニールハウスの撤去や再建について、2014年度内に終わらない可能性を示し「2015年度も対応してほしい」と求め、県は翌年度以降までの支援を国に要望すると答えました。

この人だあれ??



鎌倉園林の分報手帳：とよ

金井医師会長と懇談

党県議団は、2月20日埼玉県医師会金井忠男会長とTPP(環太平洋連携協定)交渉問題や医師確保問題で懇談しました。

TPPへの懸念、医師確保への期待

金井会長はTPPに関して、事実上混合診療が広がり、公的医療が縮小する可能性があること懸念を語りました。また、不足している病院勤務医について、医師確保策のカギは埼玉で働く魅力を伝えていくことだという党側の指摘に、会長は「そうそう!その通り」と答え、大いに意気投合しました。



村岡まさつぐ

プロフィール：党県議団幹事長、県土都市整備委員、危機管理・大規模災害対策特別委員、議会運営委員一級建築士、埼玉県応急危険度判定士、東洋大学工学部卒、川口市議2期、2011年より埼玉県議会議員



おくだ智子

プロフィール：1968年(昭和43年)鳩ヶ谷生まれ。東京家政大学家政学部卒業。栄養士。2011年まで鳩ヶ谷市議会議員(4期)。家族は夫と長男。川口市鳩ヶ谷本町に在住。趣味は読書。2014年県議補選で当選。総務県民生活委員、人材育成・文化・スポーツ振興特別委員、図書室委員

3月2日県議補欠選挙で当選した奥田智子新県議(中央)と村岡正嗣県議(左)、柳下礼子県議



安倍政権によって、消費税が8%に引き上げられました。年収250万円未満で8・2万円もの負担増(第一生命研究所試算四大家族で働き手一人)に、国民は悲鳴をあげています。黙っていれば税率10%への引き上げです。党県議団は増税に抗議するとともに、県民の怒りで安倍政権の暴走をストップさせようと呼びかけています。

3人の党県議団で増税路線にストップを!



埼玉県も消費税転嫁の条例案

2月定例会には、2014年埼玉県一般会計予算はじめ、50以上の議案によって、県有施設などの使用料・手数料に増税分が上乗せされました。

奥田智子県議は、初の本会議討論で、「このままではとても生きていけない」という年金生活や自営業の方の声を代弁し、増税は撤回すべきだと主張しました。

一方で、予算2400万円の大派遣団?

一方で、今年度埼玉県議会は姉妹提携周年記念行事ためにクィーンズランド州とメキシコ州にそれぞれ9名の親善訪問団を派遣します。予算は合わせて2400万円に上ります。奥田県議は本会議で、豪雪被害による農業者の生きるか死ぬかという状況や消費税の大増税を指摘して、「議員派遣が県民の理解を得られるとは到底考えられません」として、議長のみが参加すればすむと主張しました。

2月定例会本会議



埼玉県議会議員

村岡正嗣・奥田智子の県政だより

春号 発行 2014年4月

日本共産党埼玉県議団

〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-15-1 埼玉県庁内
TEL048 (824) 3413 FAX048 (825) 1048
http://jcp-saitama-pref.jp/

豪雪被害 国・市町議員団と連携で迅速対応

2月14日から県内に降った未曾有の大雪に対して、党県議団は翌日から国・市町議員団とともに、被災者支援に取り組みました。

未曾有の農業被害に迅速で、自己負担のない支援を

とりわけビニールハウスなど農業施設の倒壊は深刻です。党県議団は、被害甚大であった、深谷市と秩父市を視察し、「一昨年に600万円かけて、ビニールをはりかえたのに全部だめになった。今年の収入はほとんどなくなる。ハウス再建には4000万円以上かかる」こうした悲痛な農業者の声をうかがいました。

農家の悲痛な声届け、国・県に変化が...

この声をもとに党県議団は「営農意欲をなくす前に迅速な支援措置発表を」国と県に働きかけてきました。

県は当初の補正予算40億円程度を、国が農業支援を決定したことを受けて、104億円に増額しました。こうし



2月23日秩父市を視察した柳下県議と村岡県議、中央は塩川鉄也衆議院議員

てハウス撤去は農家負担なし、再建支援は1割負担の補正予算が2月定例会で可決されました。

県議団はさらなる支援の拡充、長期にわたった支援をもとめて奮闘します。



3月9日深谷市を視察する奥田県議



2月7日障害者団体が県庁前行動

許さない

重度心身障害者医療費助成制度に年齢制限を導入

障害者の医療費本人負担分を県と市で助成する制度ですが、県は65歳以上になってから障害者手帳を取得した方を対象からはずします。試算では年間13000人ほどがこの制度から閉め出される見込みです。党県議団は本会議で「障害者にとって医療は必要不可欠なのです。国連障害者権利条約では障害のある人も障害のない人と同等の権利を保障することを定めています。県のやり方は国際的には通用しません。」と反対しました。

県立小児医療センター建設事業に何がおきたのか？

解説 2月定例会の修正案と4月臨時会

2月定例会には、建設他関連費総額421億円にのぼっている県立小児医療センター移転事業に55億円もの増額補正予算が提出されていました。増額は昨年11月に明らかになっていたにもかかわらず、県は議会に隠したまま入札を行い、清水建設に随意契約したため、自民党が、55億円を補正から除く修正案を提出し、同党の賛成で可決しました。その後4月16日に、臨時会が開かれ、

まったく同じ55億円増額の補正予算案を知事が提出。自民党は本会議質疑もなく増額を可決しました。党県議団は、両者は県民に説明すべきだと指摘しました。県議団は55億円増額を否決した修正案には一定道理があるとしながらも、両議会通じて修正案などセンター移転関連費が含まれている予算全てに反対しました。(補正予算に反対したため右ページ付帯決議にも反対)

県立小児医療センター

2011年 広々としたさいたま市岩槻区からさいたま新都心へ、知事のトップダウンで移転計画発表

建設費 (土地取得費、設計、アセスメント費用含) が異常に高すぎる

県立小児医療センター 421億円 (316床) ⇕

同時期建設の 兵庫県立子ども病院 207億円 (290床)

県立小児医療センターSTORY 2014年4月

近隣にはNICU(新生児集中治療室)がひとつもない

30分も遠くなる患者家族は大変不安

さいたま市岩槻区 4万5000筆の請願
「存続を求める患者家族の会」 約10万筆の署名
近隣自治体住民 約5万筆
春日部市議会、杉戸町議会、宮代町議会、桶川市議会より 存続を求める意見書
蓮田市 市長が機能存続を要望
さいたま市議会 地元へ配慮をもとめる意見書
上尾市議会 患者家族に配慮をもとめる意見書

現在地に残す機能を検討します (2012年2月)

上田知事 (ブログより)
なのに2年たっても何一つ説明なし。予算もなし

2014年4月16日 臨時議会

建設費 421億円 + 55億円増

自・公・民らの賛成で可決

建設費総額 476億円

「現在地で建設すれば、どれほどすばらしい病院が建設できるのでしょうか」
党県議団反対討論

新病院建設を急ぐ前にまず患者家族と住民に「残す機能」の説明を

本会議で繰り返し主張してきた柳下県議

そのうえ...さらなる増額の可能性も

3月26日 建設予定地からヒ素検出

基準値の2.3倍 詳細不明

4月16日、福祉保健医療委員会で「移転に伴う現病院の機能保持のあり方について早急に方向性を示すこと」
付帯決議が可決

センターは現在地存続を 新都心計画は見直しを